



▲第1回 1915(大正4)年 球史ここに始まる
第1回大会抽球式は村山義平朝日新聞社員の手で投じられ球史の幕が開いた。
右から村山社長、児木審判委員長、平岡副審判委員長、鳥取中の鹿田投手



▲第10回 1924(大正13)年 球兒の聖地ここに誕生
大正13年8月1日、甲子園球場は晴れの完工式をあげた。梅川跡に建てられたことや、当時の球場周辺の姿がよくわかる



▲第1回 1915(大正4)年
第1回大会時に使用したグラブとミット

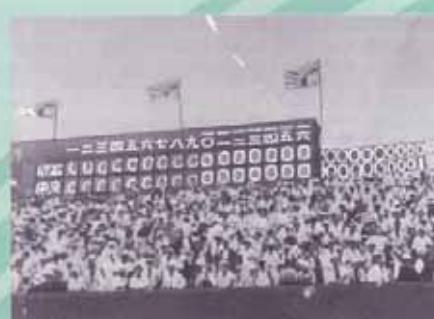


▲第12回 1926(大正15)年 ブレイクグラフ
甲子園に行けないファンのために試合の経過を伝えるブレイクグラフ(速報板)。大阪中之島公園と京都公園に設けられ一球一打まで伝えた

中止 3回		勝利 0		敗北 0		平手 1		失点 1		得点 4	
3	5	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0
昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇
昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇	昇



▲第25回 1939(昭和14)年 球場の懸垂幕
戦時緊急を告げるこの時代、甲子園球場にも「国民精神運動員」等の懸垂幕が掲げられた



▲第19回 1933(昭和8)年 中京商一明石中延長25回
中京商1-0明石中の熱狂を物語る急ごしらえのスコアボード



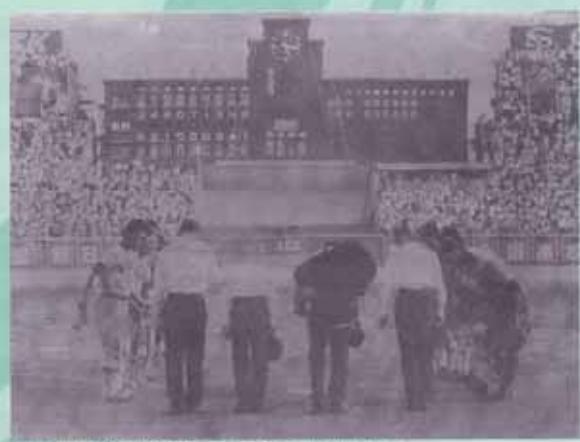
▲第19回 1933(昭和8)年
準決勝、中京商一明石中、延長
25回目のウイニングボール

▲第55回
1973(昭和48)年
雨に泣いた江川

2回戦、作新学院一扶子商は雨中の延長戦となった。12回裏扶子商1死満塁、フルカウントからの江川の投球は高めに外れ、扶子商サヨナラ勝ち。躍り上がって喜ぶ打者長谷川。捕手小島、球審永野



▲第29回 1947(昭和22)年 甲子園に戻る
戦後復活2年目、大会は本拠甲子園に戻った。大晴空はなかったが、夏空に六甲の山と白い雲がまばゆかった



▲第51回 1969(昭和44)年 熱戦はついに引き分け再試合
延長18回の末、引き分け再試合となり、「明日また戦いましょう」と両軍あいさつする杉山商(右)、三沢商チーム

11

◀第62回 1980(昭和55)年
1年生で準優勝した早実・荒木投手の背番号「11」

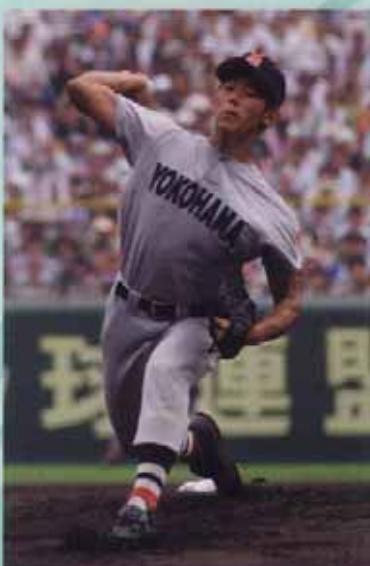


◀第67回 1985(昭和60)年
大会中5本轟打を打った
PL学園・清原選手のバット

▶第66回 1984(昭和59)年 1試合3本轟打
1回戦 PL学園ー東京 3回表1死一塁、右中間に2点
本轟打を放つPL学園・清原選手。清原選手はこの試合で大会新の1試合3本轟打を放つ



▲第78回 1996(平成8)年 奈良の好走球
決勝戦 松山商一郎本工 10回裏別本工1死満塁、3垒走者星子は本多の右飛で本塁を突きが
右翼平矢野の好返球でタッチアウト。捕手石丸



▲第83回 2001(平成13)年
宇宙飛行士・若田光一さんがスペース
シャトル内で実験したボールを使用して
始球式した宇宙球

◀第80回 1998(平成10)年 力投・松坂投手
決勝戦の対京都成蹊戦でノーヒットノーランを
達成した横浜・松坂投手



◀第74回 1992(平成4)年
星綱・松井選手が
着用していたユニホーム



▲第88回 2006(平成18)年
優勝した早稲田実・斎藤佑樹選手のスパイク(左)と、準優勝の鶴大吉小牧・
田中将大選手のグラブ(右)



▲第89回 2007(平成19)年 佐賀北初優勝
決勝戦 対広陵戦、8回裏1死満塁で剛島選手が左越えに逆転満塁ホームランを放つ



▲第40回大会から使われている現在の大優勝旗